

令和6年度

**帰国生徒・外国学校出身者選抜
学 生 募 集 要 項**

人文社会学部

芸術工学部

名古屋市立大学

目 次

教育に関する目標とアドミッション・ポリシー（入学者受入方針） …	2
人文社会学部からのお知らせ ……………	7
1 募集人員 ……………	8
2 出願資格 ……………	8
3 障害等を有する入学志願者との事前相談 ……………	10
4 出願手続 ……………	10
5 入学者選抜方法等 ……………	15
6 合格発表 ……………	16
7 入学手続 ……………	16
8 入学初年度納付金額 ……………	16
9 入学後に必要となる経費について ……………	17
10 試験場及び学生課入試係案内 ……………	18
11 個人情報の取扱い ……………	20
12 教養教育・人文社会学部・芸術工学部の概要 ……………	21

緊急時における大学からのお知らせについて

本募集要項の内容を変更する必要がある場合や、災害の発生時などの緊急時の連絡は、本学ウェブサイトにより周知しますので、受験前は特に注意してください。

○本学ウェブサイト
<https://www.nagoya-cu.ac.jp/>



教育に関する目標とアドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

名古屋市立大学

《教育に関する目標》

教育は、学部・大学院を問わず、大学が社会や学生・大学院生に対して果たす最優先の責務であり、その強化に取り組む。そして、あらゆる機会を通じて幅広い視野と教養、「共生」の精神、豊かな創造性を身につけた人材を育成する。また、高度な知識と技術を身につけ、目的意識と主体性を持って、地域社会及び国際社会に貢献することができる人材を育成する。

《アドミッション・ポリシー》

名古屋市立大学では、各学部がその理念と目的に応じて、入学者選抜試験における教科・科目を設定しており、明確な目的意識と勉学への強い意欲を持ち、大学の教育に関する目的を理解し、次のような資質を有する多様な学生を求めます。

- 十分な基礎学力とそれに裏打ちされた知識・技能
- 自ら課題を発見・解決し、それを伝える思考力・判断力・表現力
- 主体性を持ち、幅広い視野で多様な人々と協働して学ぶ態度
- 豊かな人間性と、地域や社会で活躍できる適性

人文社会学部

《理念と目的》

- 人類の豊かな未来を求めて人文科学・社会科学の諸分野について学び、今日の人間、社会、文化に関わる課題について研究して、それを社会に役立てる人材
- 現代の地域社会や国際社会が直面する複雑な諸問題を多面的に考察し、実践的に解決していく知を身につけた人材
- 少人数教育の演習・論文指導によって、発表・討論能力や構想力・文章表現力を身につけた人材

《アドミッション・ポリシー》

人文社会学部では次のような人の入学を期待している。

- 人間・社会・文化に関わる諸問題に関心を持ち、持続可能な社会の形成に向けて、学際的な知識と柔軟な発想力をもって積極的に取り組む人
- 日常、当たり前になっている習慣や規範、考え方を客観的に捉え直し、国内外における現代的課題に対して、根本的にかつ多角的にアプローチできる人
- 学ぶ意欲があり、さまざまな人との出会いや新たな経験に主体的である人

修得しておくべき知識等の内容・水準

- 国語・英語・数学において十分な基礎学力を有すること

- 自分の考えを筋道立てて説明できる論理的な思考力や言語表現力を持ち、他者の声に傾聴するなど十分なコミュニケーション能力を備えていること

入学者選抜の基本方針

高等学校等で学習する全ての教科が人文社会学部教育の土台になるため、いずれの入試においても、調査書の評定、または、大学入学共通テスト等で、高等学校教育段階においてめざす基礎学力を確認します。

《心理教育学科 帰国生徒・外国学校出身者選抜のアドミッション・ポリシー》

求める学生像

- 日本への関心や勉学の意欲をもち、海外での経験を生かそうとする人
- 国内外の保育・教育、または子どもの発達を科学的に探究していくことに関心をもち、子どもに関連する現代的諸課題の緩和または解決に向けて他者と協力し合い、建設的な議論ができる人
- 多様な社会経験や異文化経験を活かし、心理学や教育学の専門的知識を学び、人が生まれ育つ環境を持続可能にすることに関与しようとする人

修得しておくべき知識等の内容・水準

- 学修、特に講義を理解し、レポートなどを作成するのに必要な、日本語運用能力を有していること
- ある程度の英語の運用能力を有していること

入学者選抜の基本方針

小論文試験により、心理学・教育学の知識を修得するに足る基礎学力、日本語運用能力、思考力、判断力及び表現力等を確認します。また面接を実施し、日本国内外の心理学・教育学の学びに向かう力や人間性及び本学科のアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに係る資質を確認します。英語運用能力はTOEIC公開テスト(Listening & Reading) またはTOEFL (iBT) により判定します。

《現代社会学科 帰国生徒・外国学校出身者選抜のアドミッション・ポリシー》

求める学生像

- 現代社会が直面する諸問題とりわけ身近な都市圏・地域社会に深い関心を持ち、持続可能な社会の形成に向けて解決のために努力する人
- 現代社会の諸問題について、自らどのような問題であるか考え、探究し、社会科学の諸分野を幅広く深く学び、社会調査などの基本的スキルを身につける意欲のある人
- 大学での社会科学学修のために必要な基礎知識を十分に習得し、勉学意欲を持ち、知的好奇心や柔軟な発想力を持つ人

修得しておくべき知識等の内容・水準

- 高校卒業程度の国語・数学・英語・社会科（地理歴史、公民）・理科の知識を十分有していること
- 大学での学修に必要な課題発見力、論理的思考、討論発表能力、文章表現力を有していること

入学者選抜の基本方針

TOEIC公開テスト(Listening & Reading)の成績並びに本学が実施する日本語による小論文、面接試験では、現代社会学科の学修に十分対応できる知識とそれを活用した思考力、判断力及び表現力等、本学科のアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに係る資質を確認します。

《国際文化学科 帰国生徒・外国学校出身者選抜のアドミッション・ポリシー》

求める学生像

- 日本文化や日本社会に関心を持ち、海外での留学経験を将来の自分のキャリアに活かすことに意欲のある人
- 様々な文化や国際関係について学ぶことで、国際平和に必要な多文化共生社会実現のために貢献しようとする意欲のある人
- 自文化と他文化の相互関係を理解する素地として、多様な社会経験や異文化経験を持つ人

修得しておくべき知識等の内容・水準

- 講義を理解するために必要な日本語運用能力を有すること
- かなりの程度の英語の運用能力を有すること

入学者選抜の基本方針

多様な社会経験や異文化経験を持ち、海外での留学経験を将来の自分のキャリアに活かすことに意欲があって、多文化共生社会実現のための貢献を目指して入学を希望する人を対象に行います。TOEIC公開テスト(Listening & Reading)またはTOEFL(iBT)の成績並びに本学が実施する日本語による小論文、面接試験で、将来、人文科学・社会諸科学分野の幅広い教養を身につけて国際社会に貢献しようとする志及び本学科のアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに係る資質を確認します。

芸術工学部

《理念と目的》

- デザイン、芸術と工学分野の幅広い知識と理論を学ぶことにより、環境の持続可能性、健康福祉など、社会的要請の強いテーマに対する問題解決能力を養います。
- デザインと工学分野の専門的知識、理論、技法を学ぶことにより、形態と機能のバランスを保ったデザイン力を養います。
- デザインの実践教育の場として、少人数学習によるデザイン実習を重視しています。
- 外国人教師による講義やワークショップ等での実習指導により、国際的に活躍できる人材を養成します。

《情報環境デザイン学科 帰国生徒・外国学校出身者選抜のアドミッション・ポリシー》

求める学生像

情報環境デザインへの知的関心と探究心を持ち、メディア表現、ソフトウェアやコンテンツ制作に関わる、デザイナー、クリエイター、技術者等として、国内外の情報デザイン分野の発展に貢献する意欲のある学生を求めます。

- 理学と情報通信、および、芸術に強い関心を持つ人
- 情報通信、メディア工学などの分野の先端技術を積極的に学びたい人
- デザイン実習や課外の社会連携プロジェクトなどにおいて、自ら問題を発見し、メディアや情報により提案できる人
- 学習したことの応用だけでなく、身の回りの事象を観察し、自ら考えて創意工夫のできる人
- 理学、情報通信、芸術の融合による、情報、映像、音響などのメディア表現、ソフトウェアやコンテンツ制作に関わるデザイナー、クリエイター、技術者等を目指す人
- 異文化経験を持ち、豊かな表現力、構想力と理学、工学の知識、技法を修得し、情報デザイン分野に貢献できる実践力を備えた人材を目指す人
- 主体性をもって多様な人々と協働して学べる人

修得しておくべき知識等の内容・水準

- 情報通信、メディア工学などの分野の先端技術に関する理論や技法を理解するための基盤となる基礎学力
- ユーザーインターフェイス、映像、音響分野のデザインや造形およびメディア表現の実習で、自由な表現を可能とするための基礎的描写力
- 外国人教師による講義や実習指導に対応でき、専門領域において国際的な視野に立った情報収集を行うための英語力
- 文章の読解、考えの口述および文章表現、円滑なコミュニケーションのための日本語力

選抜方法

大学入学共通テストは免除するが、外国での学校教育証明等を参考に、情報工学・デザインを学ぶ上で必要な基礎学力を評価する。さらに、全て日本語による小論文、実技および面接を実施し、論理的記述力、基礎的描写力に加えて、主体的な学習意欲、判断力、表現力、協調性等を評価する。

《産業イノベーションデザイン学科 帰国生徒・外国学校出身者選抜のアドミッション・ポリシー》

求める学生像

産業イノベーションデザインへの知的関心と探究心を持ち、工学およびデザイン分野においてイノベーションを創出できる技術者およびデザイナーとして、国内外の産業デザイン分野の発展に貢献する意欲のある学生を求めます。

- 現代社会の諸問題を、芸術的手法および工学的手法で解決することに興味を持つ人
- 電子・情報・ロボット工学などの先端工学技術およびプロダクト・グラフィックなどの高度デザイン技術を積極的に学びたい人
- デザイン実習や課外の社会連携プロジェクトなどにおいて、自ら問題を発見し工学およびデザインの知識により解決策を提案できる人
- 学習したことの応用だけでなく、身の回りの事象を観察し、自ら考えて創意工夫のできる人
- 異文化経験を持ち、豊かな表現力、構想力と理学、工学の知識、技法を修得し、産業デザイン分野に貢献できる実践力を備えた人材を目指す人
- 主体性をもって多様な人々と協働して学べる人

修得しておくべき知識等の内容・水準

- 電子・情報・工学などの分野の先端技術を積極的に学び、これらの理論や技法を理解するための基盤となる数学の基礎学力
- プロダクト・グラフィック・3DCG分野のデザイン実習や造形の実習で、自由な表現を可能とするための基礎的描写力
- 外国人教師による講義や実習指導に対応でき、専門領域において国際的な視野に立った情報収集を行うための英語力
- 文章の読解、考えの口述および文章表現、円滑なコミュニケーションのための日本語力

選抜方法

大学入学共通テストは免除するが、外国での学校教育証明等を参考に、工学・デザインを学ぶ上で必要な基礎学力を評価する。さらに、全て日本語による小論文、実技および面接を実施し、論理的記述力、基礎的描写力に加えて、主体的な学習意欲、判断力、表現力、協調性等を評価する。

《建築都市デザイン学科 帰国生徒・外国学校出身者選抜のアドミッション・ポリシー》

求める学生像

建築・都市分野への知的関心と探究心に加え、倫理観と幅広い基礎知識をもち、設計者や技術者等として、国内外の建築・都市分野の発展に貢献する意欲のある学生を求めます。

- 建築・都市分野への強い関心とデザインへの興味を持つ人
- 継続的な努力ができる人
- 自分を律し、責任感と倫理観を備える人
- 人間性豊かな感性と探究心を持つ人
- 大学院への進学意欲を持ち、建築・都市分野の発展に寄与する意欲のある人
- 多様な社会や異文化に興味を持つ人
- 主体性をもって多様な人々と協働して学べる人

修得しておくべき知識等の内容・水準

- 文章の読解、考えの口述および文章表現、円滑なコミュニケーションのための日本語力と英語力
- 建築学・都市学を修得する上での基盤となる、数学・理科の基礎学力
- 建築学・都市学および人間理解の基盤となる社会・文化・芸術・思想など多様な領域の基礎的素養
- 文章による論理的記述力および素描による基礎的描写力

選抜方法

大学入学共通テストは免除するが、外国での学校教育証明等を参考に、建築学・都市学を学ぶ上で必要な基礎学力を評価する。さらに、全て日本語による小論文、実技および面接を実施し、論理的記述力、基礎的描写力に加えて、主体的な学習意欲、判断力、表現力、協調性等を評価する。

「入試過去問題活用宣言」への参加について

本学のアドミッション・ポリシーを実現するため必要と認める範囲で「入試過去問題活用宣言」に参加している大学「提供大学」の入試過去問題を使用して出題することがあります。ただし、使用するとは限りません。

人文社会学部からのお知らせ

人文社会学部においては、各種の資格・免許が取得できますが、複数の資格・免許の取得を目指す場合や、他学科で開講する授業科目を履修することで取得できる資格・免許については、4年間で取得できない場合があります。受験される学科を選択される際には特にご注意ください。

資格・免許	在籍学科	心理教育学科	現代社会学科	国際文化学科
幼稚園教諭一種免許状、保育士資格		○	×	×
中学校教諭一種免許状（社会） 高等学校教諭一種免許状（地理歴史、公民）		△	○	△
中学校教諭一種免許状（英語） 高等学校教諭一種免許状（英語）		△	△	○
社会福祉士国家試験受験資格		△	○	△
社会調査士資格		×	○	×
認定心理士資格		○	×	×
公認心理師試験受験資格（※）		○	×	×

○：在籍する学科において開講する授業科目を履修することで、資格・免許が取得できます。

△：他学科において開講する授業科目を履修することで、資格・免許が取得できます。ただし、4年間で取得できない場合があります。

×：在籍する学科では資格・免許を取得できません。

※公認心理師試験の受験資格取得には、公認心理師法施行規則に定める所要の科目を開講する大学院において、所要の単位を修得して修了する必要があります。ただし大学院の履修については、省令で定められた施設において、実習指導者の資格を有する者による指導を受けながら2年以上の実務経験で代替することもできます。

1 募集人員

学 部	学 科	募集人員
人文社会学部 *1	心理教育学科	若干名
	現代社会学科	若干名
	国際文化学科	2名*2
芸術工学部	情報環境デザイン学科	私費外国人留学生と 合わせて若干名
	産業イノベーションデザイン学科	
	建築都市デザイン学科	

*1 受験する学科を選択する際に、必ず7ページに掲載している「人文社会学部からのお知らせ」をご覧ください。

*2 合格者が募集人員に満たなかった場合は、一般選抜（前期日程）で補充します。

2 出願資格

《人文社会学部》

日本国籍を有する者及び日本国の永住許可を得ている者、その他これに準ずる者であって、保護者の海外勤務等に同伴して外国の学校教育を受けたもの（帰国生徒）又は保護者の海外勤務等に同伴するものではなく外国の学校教育を受けたもの（外国学校出身者）で、次の各号のいずれかに該当し、心理教育学科及び現代社会学科はTOEIC公開テスト(Listening & Reading)を、国際文化学科はTOEIC公開テスト(Listening & Reading)又はTOEFL iBTを受験しているもの

- (1) 外国において、学校教育における12年の課程を令和4年4月1日から令和6年3月31日までに修了（卒業）した者及び修了（卒業）見込みの者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの *1

なお、12年の課程には日本における通常の課程による学校教育の期間も含まれるが、外国において最終学年を含めて2学年度以上継続して学校教育を受けていることを必要とする。*2

ただし、外国に設置されたものであっても、日本の学校教育法に準拠した教育を施している学校に在学した者については、その期間を外国において学校教育を受けたものとみなさない。

〔 *1 大学入学資格として少なくとも12年の教育課程を基本とする国において、「飛び級」等により通算教育年数12年に満たないで修了（卒業）した者及び修了（卒業）見込みの者を含む。
*2 2学年度とは、当滞在地で所属した学校制度での2学年の教育期間を意味する。〕

- (2) 外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局から国際バカロレアの資格証書を令和4年(2022年)又は令和5年(2023年)に授与された者
- (3) ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格証書を令和4年(2022年)又は令和5年(2023年)に授与された者
- (4) フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格証書を令和4年(2022年)又は令和5年(2023年)に授与された者
- (5) グレート・ブリテン及び北部アイルランド連合王国において大学入学資格として認められているジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル資格(GCEAレベル資格)証書を令和4年(2022年)又は令和5年(2023年)に授与された者で、その資格に3科目以上合格しているもの

- (6) その他本学において、個別の入学資格審査により、上記(1)から(5)までの者と同等以上の学力と条件が備わっていると認められた者で、令和6年3月31日までに18歳に達するもの

【注】上記出願資格(6)により出願する者及び外国に設置されたインターナショナルスクール、アメリカンスクール等のいわゆる国際学校を卒業した者は、入学資格の審査を受ける必要があります。

令和5年8月31日(木)必着(消印有効ではありません。)で、下記4点の書類を本学 学生課入試係に書留速達便で郵送し、入学資格の審査を受けてください。

ア 入学資格審査願書(様式は出願書類の所定様式とともに本学ウェブサイトに掲載)

イ 履歴書

ウ 最終出身学校の卒業証明書及び成績証明書

エ 学則・カリキュラムなどの当該学校の概要を示す資料

(イ及びウについては11ページ(4)出願に必要な書類等の③及び⑤を参照すること)

国外在住者が提出する場合は、国外からの郵送による書類の提出は認めませんので、必ず日本国内在住の代理人が手続を行ってください。本学からの通知も代理人宛に行います。

入学資格審査を受けるために本学へ提出した書類については、本出願の際に省略することができます。提出された書類は返却しません。

《芸術工学部》

日本国籍を有する者及び日本国の永住許可を得ている者、その他これに準ずる者であって、保護者の海外勤務等に同伴して外国の学校教育を受けたもの(帰国生徒)又は保護者の海外勤務等に同伴するものではなく外国の学校教育を受けたもの(外国学校出身者)で、次の各号のいずれかに該当するもの。また、出願資格の(6)により出願する者はTOEIC公開テスト(Listening & Reading)又はTOEFL iBTを受験しているもの

- (1) 外国において、学校教育における12年の課程を令和4年4月1日から令和6年3月31日までに修了(卒業)した者及び修了(卒業)見込みの者、又はこれに準ずる者で、文部科学大臣の指定したもの *1

なお、12年の課程には日本における通常の課程による学校教育の期間も含まれるが、外国において最終学年を含めて2学年度以上継続して学校教育を受けていることを必要とする。*2

ただし、外国に設置されたものであっても、日本の学校教育法に準拠した教育を施している学校に在学した者については、その期間を外国において学校教育を受けたものとみなさない。

また、12年の課程修了時に国家試験や州の統一試験を課される場合は、その試験を受験して、さらに合格が義務づけられている場合はその試験に合格していなければならない。*3

- *1 大学入学資格として、少なくとも12年の教育課程を基本とする国において、「飛び級」等により、通算教育年数12年に満たないで修了(卒業)した者及び修了(卒業)見込みの者を含む。
*2 2学年度とは、当滞在地で所属した学校制度での2学年の教育期間を意味する。
*3 国家試験や州の統一試験とは、米国のSAT、英国のGCSE、カナダ各州の大学入学資格試験などのことであり、統一試験を受けていない場合には、TOEIC公開テスト(Listening & Reading)又はTOEFL iBTを受験すること。

- (2) 外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局から、国際バカロレアの資格証書を令和4年(2022年)又は令和5年(2023年)に授与された者
- (3) ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格証書を令和4年(2022年)又は令和5年(2023年)に授与された者
- (4) フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格証書を令和4年(2022年)又は令和5年(2023年)に授与された者
- (5) グレート・ブリテン及び北部アイルランド連合王国において大学入学資格として認められているジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル資格(GCEAレベル資格)証書を令和4年(2022年)又は令和5年(2023年)に授与された者で、その資格

に3科目以上合格しているもの

(6) その他本学において、個別の入学資格審査により、上記(1)から(5)までの者と同等以上の学力と条件が備わっていると認められた者で、令和6年3月31日までに18歳に達するもの

【注】上記出願資格(6)により出願する者及び外国に設置されたインターナショナルスクール、アメリカンスクール等のいわゆる国際学校を卒業した者は、入学資格の審査を受ける必要があります。

令和5年8月31日(木)必着(消印有効ではありません。)で、下記4点の書類を本学 学生課入試係に書留速達便で郵送し、入学資格の審査を受けてください。

ア 入学資格審査願書(様式は出願書類の所定様式とともに本学ウェブサイトに掲載)

イ 履歴書

ウ 最終出身学校の卒業証明書及び成績証明書

エ 学則・カリキュラムなどの当該学校の概要を示す資料

(イ及びウについては11ページ(4)出願に必要な書類等の③及び⑤を参照すること)

(ウ及びエが日本語以外の言語で証明されている場合は、任意の書式で日本語の訳文を提出してください。)

国外在住者が提出する場合は、国外からの郵送による書類の提出は認めませんので、必ず日本国内在住の代理人が手続きを行ってください。本学からの通知も代理人宛に行います。

入学資格審査を受けるために本学へ提出した書類については、本出願の際に省略することができます。提出された書類は返却しません。

3 障害等を有する入学志願者との事前相談

障害等がある入学志願者で、受験上及び修学上の配慮を必要とする方は、令和5年9月1日(金)までに必ず本学 学生課入試係へ申し出てください。

(1) 相談の方法

受験事前相談・配慮措置申請書(診断書等の必要書類添付)を提出することとし、必要な場合は、本学において志願者又はその立場を代弁できる代理人等との面談等を行います。

(2) 連絡先 本学 学生課入試係 (TEL 052-853-8020)

4 出願手続

インターネット出願システムで出願情報の登録及び入学検定料の支払いを行った後に、出願期間内に書類を郵送により提出してください。(出願期間内に本学へ書類が到着しない場合は、受験できませんのでご注意ください。)

本学ウェブサイト>入試情報>学部入試情報>インターネット出願について

<https://www.nagoya-cu.ac.jp/admissions/undergraduate/internet/>

【インターネット出願システムを利用した出願の流れ】

①出願情報の登録	インターネット出願システムへの登録期間にパソコンやスマートフォンから、本学のインターネット出願システムにアクセスし、画面の指示に従って出願情報を登録してください。
②出願情報の確認	入学検定料の支払い前に 登録した内容に誤りがないか必ず確認してください。入学志願票(確認用)を印刷して確認することもできます。
③入学検定料の支払い	検定料の支払い方法を選択し、入学検定料17,000円+支払手数料を支払ってください。支払い方法は以下のいずれかです。 ・クレジットカード ・コンビニエンスストア

	・ ネットバンキング ・ ペイジー対応銀行ATM
④入学志願票等の印刷	入学志願票（提出用）及び宛名ラベルを印刷してください。
⑤出願書類の提出	「(4) 出願に必要な書類等」に記載されている書類を本学学生課入試係へ書留速達郵便で送付してください。

※出願情報の登録だけでは出願手続きは完了しません。下記出願期間内に「(4) 出願に必要な書類等」に記載されている書類を郵送で提出することで完了します。

(1) 出願期間

令和5年11月1日(水)から令和5年11月7日(火)16:00(必着)

※消印有効ではありませんので、郵便事情を考慮して早めに送付してください。ただし、11月5日(日)以前の発信局(日本国内)消印がある書留速達郵便に限り、期間後に到着した場合でも受理します。なお、出願期間最終日(11月7日(火))のみ、郵送による出願ができない事由がある場合に限り、持参による出願書類の提出を認めます。この場合、必ず、同日の9:00から15:00の間に学生課入試係(052-853-8020)に予め連絡した上で、16:00までに本要項に記載してある出願書類の郵送先へ持参により提出してください。

※インターネット出願システムへの登録期間は、令和5年10月23日(月)9:00から令和5年11月7日(火)16:00までです。

(2) 出願書類の郵送先

〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地(桜山キャンパス)
名古屋市立大学 学生課入試係

(3) 出願書類の提出方法

- ア 書留速達郵便で送付してください。
- イ 出願期間を過ぎた場合は受理しません。
- ウ 国外在住者が出願する場合は、国外からの郵送による出願書類の提出は認めませんので、必ず日本国内在住の代理人が手続を行ってください。本学からの通知も代理人宛に行います。

(4) 出願に必要な書類等 (すべて日本語で入力及び記入してください。)

本学所定の様式(履歴書、志願理由書)及び記入例については本学ウェブサイトに掲載しています。

本学ウェブサイト>入試情報>学部入試情報>学生募集要項(一般・推薦・留学生・帰国生徒等)

<https://www.nagoya-cu.ac.jp/admissions/undergraduate/guide/>

から様式をダウンロードの上、作成してください。

	書類等	提出の必要 ○:あり △:該当者のみ ×:なし -:別記載		説明
		人	芸	
インターネット出願システムから印刷する書類	① 入学志願票 (提出用)	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・顔写真データのアップロード及び入学検定料の支払いが完了した後、インターネット出願システムから白色のA4用紙に印刷してください。(カラー、モノクロのどちらでも可) ・顔写真データは上半身、無帽、正面向き、背景なし、カラー、出願前3か月以内に撮影したものをアップロードしてください。 ・入力上の留意事項については14ページを参照

	書類等	人	芸	説	明
インターネット出願システムから印刷する書類	② 宛名ラベル (出願封筒用)	○	○		<ul style="list-style-type: none"> 顔写真データのアップロード及び入学検定料の支払いが完了した後、インターネット出願システムから、白色のA4用紙に印刷したものを市販の角型2号封筒(各自でご用意ください。)に貼り付け、出願に必要な書類を封入してください。 1つの封筒には1名分のみとし、2名分以上封入してはいけません。
出に本願掲学書載ウェブ所定用紙	③ 履 歴 書	○	○		<ul style="list-style-type: none"> 本学所定の用紙に記入してください。
	④ 志 願 理 由 書 (<u>芸術工学部のみ</u>)	×	○		<ul style="list-style-type: none"> 本学所定の用紙に記入してください。(400字以内)
その他必要な書類	⑤ 最終出身学校の卒業(見込)証明書及び成績証明書	△	△	出願資格の(1)又は(6)により出願する者のみ	<ul style="list-style-type: none"> 最終出身学校とは日本の高等学校に相当する学校です。複数の学校に在籍した場合は全ての学校の成績証明書を提出してください。 再発行ができないものについては、原本のコピーを提出してください。(入学手続き時に原本を確認します。) 日本語以外の言語で証明されている場合は、任意の書式で日本語の訳文を提出してください。
	⑥ TOEIC公開テストの公式スコア	○	—	<u>【人文社会学部】 心理教育学科 及び 現代社会学科</u>	<ul style="list-style-type: none"> 原本(コピーは不可)を提出してください。 TOEIC公開テストの種類は、Listening & Readingに限ります。 ※ウェブサイトからダウンロードし、印刷された成績表は不可。ただし、令和5年4月以降に実施のTOEIC Listening & Reading公開テスト成績を提出される場合は、従来の公式認定証の代わりに、デジタル公式認定証の写しを提出することも可能です。デジタル公式認定証の写しを提出する場合は、デジタル公式認定証の写しの裏面にデジタル公式認定証URLも記載ください。
	⑦ TOEIC公開テストの公式スコア又はTOEFL iBTのOfficial Score Report	○	—	<u>【人文社会学部】 国際文化学科 のみ</u>	<ul style="list-style-type: none"> 原本(コピーは不可)を提出してください。 TOEIC公開テストの種類は、Listening & Readingに限ります。 TOEFL Official Score Reportは、米国ETSから本学(Nagoya City University-Entrance Examination Division DIコード: B212)へ出願締切日までに直接送付されるように手続きしてください。 ※ウェブサイトからダウンロードし、印刷された成績表は不可。ただし、令和5年4月以降に実施のTOEIC Listening & Reading公開テスト成績を提出される場合は、従来の公式認定証の代わりに、デジタル公式認定証の写しを提出することも可能です。デジタル公式認定証の写しを提出する場合は、デジタル公式認定証の写しの裏面にデジタル公式認定証URLも記載ください。

	書類等	人	芸	説明
その他必要な書類	⑦ TOEIC公開テストの公式スコア又はTOEFL iBTのOfficial Score Report	—	△	<p>【芸術工学部】 出願資格の(1)又は(6)により出願する者のみ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 原本（コピーは不可）を提出してください。 ・ TOEIC公開テストの種類は、Listening & Readingに限ります。 ・ TOEFL Official Score Reportは、米国ETSから本学（Nagoya City University-Entrance Examination Division DIコード：B212）へ出願締切日までに直接送付されるように手続きしてください。 ・ 出願資格(1)で⑧の書類を提出した者は必要ありません。 <p>※ウェブサイトからダウンロードし、印刷された成績表は不可。ただし、令和5年4月以降に実施のTOEIC Listening & Reading公開テスト成績を提出される場合は、従来の公式認定証の代わりに、デジタル公式認定証の写しを提出することも可能です。デジタル公式認定証の写しを提出する場合は、デジタル公式認定証の写しの裏面にデジタル公式認定証URLも記載ください。</p>
	⑧ 国家試験又は州の統一試験の資格証明書 （芸術工学部のみ）	×	△	<p>出願資格の(1)により出願する者のみ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国家試験や州の統一試験とは、米国のSAT、英国のGCSE、カナダ各州の大学入学資格試験などのことです。 ・ 再発行ができないものについては、原本のコピーを提出してください。（入学手続き時に原本を確認します。） ・ 日本語以外の言語で証明されている場合は、任意の書式で日本語の訳文を提出してください。 ・ 成績証明書に資格証明が併記されている場合は、成績証明書の日本語訳の文書にその旨を書いてください。
	⑨ 国際バカロレア資格証書及び国際バカロレア最終試験6科目の成績証明書	△	△	<p>出願資格の(2)により出願する者のみ</p>
	⑩ ドイツのアビトゥア資格証書及び試験科目の成績証明書	△	△	<p>出願資格の(3)により出願する者のみ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 再発行ができないものについては、原本のコピーを提出してください。（入学手続き時に原本を確認します。） ・ 資格証書及び成績証明書が日本語以外の言語で証明されている場合は、任意の書式で日本語の訳文を提出してください。
	⑪ フランスのバカロレア資格証書及び試験科目の成績証明書	△	△	<p>出願資格の(4)により出願する者のみ</p>

	書類等	人	芸	説明	
その他必要な書類	⑫ ジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル資格(GCEAレベル資格)証書	△	△	出願資格の(5)により出願する者のみ	<ul style="list-style-type: none"> 再発行ができないものについては、原本のコピーを提出してください。(入学手続き時に原本を確認します。) 資格証書及び成績証明書が日本語以外の言語で証明されている場合は、任意の書式で日本語の訳文を提出してください。
	⑬ 本人のパスポートの写し等	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 志願者本人の「写真・氏名等が記載されているページ」及び「外国の高等学校等に在学した期間の出入国印が押されているすべてのページ」の写しを提出してください。 出入国印が押されたパスポートの写しの提出ができない場合は「海外在留証明書(在外公館により証明書で、滞在期間及び在留地を明記したもの)」または出入国在留管理庁が発行する「出入(帰)国記録の写し」を提出してください。(様式任意) 日本国の永住許可を得ている者は、外国人登録証明書又は在留カードの写しを提出してください。 <p>※「出入(帰)国記録の写し」の請求方法については、出入国在留管理庁のウェブサイトをご確認ください。</p>	

(5) 入学検定料の返還

原則として既納の入学検定料は返還しません。ただし、以下の場合は納入された入学検定料を返還します。詳細は、本学ウェブサイト

(<https://www.nagoya-cu.ac.jp/admissions/fee/refund/>)をご覧ください。

- ・二重で支払いをした場合
- ・入学検定料等の支払い後、出願書類を提出しなかった場合（出願が受理されなかった場合も含む。）

(6) 受験票のダウンロード及び印刷

受験票は令和5年11月15日（水）10:00から、インターネット出願システムよりダウンロード及び印刷が可能となります。各自で印刷してください。

(7) 受験案内

受験案内は本学ウェブサイトに掲載いたします。試験場や集合場所、その他受験上の注意事項は受験案内で必ずご確認ください。

本学ウェブサイト>入試情報>入試実施状況>受験案内

<https://www.nagoya-cu.ac.jp/admissions/application-status/guide/>

掲載期間：令和5年11月15日（水）10:00から

(8) 出願上の留意事項

- ア 提出された出願書類は返却しません。
- イ 出願書類に不備がある場合は受理しないことがあります。
- ウ インターネット出願システム又は出願書類に虚偽の登録又は記載をした場合は、入学許可後であっても入学を取り消すことがあります。
- エ 連絡先について変更があれば速やかに本学 学生課入試係まで郵便はがき等で連絡してください。

オ 入学試験に関する本学からの通知は、全て国内の連絡先に行います。

カ TOEIC公開テスト(Listening & Reading)及びTOEFL iBTは、受験後、証明書が発行されるまでにかかなりの時間がかかりますので、出願期間に間に合うよう注意して受験してください。

(9) インターネット出願システム入力上の留意事項

ア 「居住地」の欄は、名古屋市在住の方で、志願者又は配偶者若しくは1親等の親族が入学の日(4月1日)において同日の前から引き続き1年以上の期間、名古屋市内に住所を有していることを住民票により証明できる方(名古屋市住民等)は「名古屋市内居住(1年以上)」を、名古屋市内に住所を有している期間が1年未満の方は「名古屋市内居住(1年未満)」を、名古屋市外に居住の方は「名古屋市内居住ではない」を選択してください。

イ 「住所等」の欄は、令和6年4月上旬まで確実に連絡を受けることができる連絡先を入力してください。

ウ 「メールアドレス」欄は、パソコン・携帯電話の両方を持っている場合は、どちらか一方のアドレス(確実に受信できるもの)を入力してください。

エ 「緊急連絡先」欄は、本人に連絡がとれないときに確実に連絡できる方(保護者等)の情報を入力してください。

5 入学者選抜方法等

《人文社会学部》

【心理教育学科及び現代社会学科】

日本語による小論文、面接試験及びTOEIC公開テスト(Listening & Reading)の成績による審査の結果を総合して入学者の選抜を行います。

【国際文化学科】

日本語による小論文、面接試験及びTOEIC公開テスト(Listening & Reading)又はTOEFL iBTの成績による審査の結果を総合して入学者の選抜を行います。

(1) 試験日程

期 日	時 間	内 容
令和5年 12月2日(土)	10:00～11:30	日本語による小論文
	13:30～	日本語による面接試験

(2) 試験場

本学 滝子キャンパスで実施する予定です。(19・20ページ図参照)

当日は、受験票・筆記用具(鉛筆・消しゴム)を持参し、試験開始20分前までに集合してください。試験場及び集合場所については、受験案内をご確認ください。

《芸術工学部》

日本語による実技試験、小論文及び面接試験を実施します。出願書類、日本語による実技試験、小論文及び面接試験の結果を総合的に評価し、入学者の選抜を行います。

(1) 試験日程

期 日	時 間	内 容
令和5年 12月2日(土)	10:00～11:00	実技試験(日本語による出題) (スケッチ、デッサン等)
	11:20～12:20	日本語による小論文
	13:30～	日本語による面接試験

注) 実技試験のため、受験者は試験当日、次の物品を持参していただく予定です。(規格・品質・個数は問いません。) 詳細については、受験票送付の際にご連絡します。

ア 鉛筆(4H～6B程度のもの各種)

イ カッターナイフ、小刀または鉛筆削り器(ただし電動及び手動ハンドル回転式は不可)

ウ 練り消しゴム

エ プラスチック消しゴム

(2) 試験場

本学 滝子キャンパスで実施する予定です。(19・20ページ図参照)

当日は、受験票・筆記用具(実技試験で使用する物品含む。)を持参し、試験開始20分前までに集合してください。試験場及び集合場所については、受験案内をご確認ください。

6 合格発表

(1) 日 時 令和5年12月12日(火) 10:00

(2) 方 法 合格者の受験番号を本学ウェブサイトに掲載するとともに、入学許可書及び入学
手続関係書類を合格者の日本国内の連絡先宛に送付します。(電話等による問合せに
は、一切応じません。また、掲示板等での掲示はありません。)

不合格者には送付しませんので、必ず本学ウェブサイトで可否を確認してください。

本学ウェブサイト <https://www.nagoya-cu.ac.jp/>

なお、合格しているにもかかわらず、通知が令和5年12月19日(火) 11:00までに未到達の場合に限り、同日17:00までに本学 学生課入試係に問い合わせてください。

7 入学手続

(1) 日 時 令和5年12月26日(火) 13:00~16:00

(2) 場 所 本学 桜山キャンパス本部棟(19・20ページ図参照)

(3) 方 法 本学の受験票及び入学時納付金納付証明書等(詳細は合格者に送付する「入学手
続のお知らせ」でお知らせします。)を持参して手続してください。ただし、郵送に
よる手続も可能です。

※上記の日時に手続できない場合は、書留速達郵便により令和5年12月25日
(月)までに必着で手続書類を送付してください。

※上記の受付日時に入学手続を完了しなかった者は、入学を辞退したものとして
取扱います。

8 入学初年度納付金額

(1) 学 費

区 分	名古屋市住民等	その他の者
入 学 料	232,000円	332,000円
授 業 料	535,800円	535,800円
計	767,800円	867,800円

注1 入学料は入学手続き時に納付してください。入学手続き後の入学料の返還はできません。

注2 入学料、授業料は、令和5年4月入学者の金額です。令和6年度入学者については改めてお知らせします。

注3 授業料は、入学後、年2回（前期・後期）に分けて引落を実施します。

注4 名古屋市住民等とは、①入学者又は②配偶者若しくは1親等の親族が入学の日（4月1日）において同日の前から引き続き1年以上の期間名古屋市内に住所を有していたことを住民票により証明できる者を指します。

注5 在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定後の授業料が適用されます。

(2) 諸団体納付金

種 類	人文社会学部	芸術工学部
後 援 会 費	60,000円	60,000円
同 窓 会 費	15,000円 (瑞桜会)	20,000円 (萱光会)
交 流 会 費	5,000円	5,000円
学 友 会 費	8,000円	8,000円
学 生 教 育 研 究 災 害 傷 害 保 険 料	3,300円	3,300円
学 研 災 付 帯 賠 償 責 任 保 険 料	1,360円	1,360円
計	92,660円	97,660円

注1 入学手続き時に入学料とあわせて納付してください。

注2 上記金額については変更する場合があります。確定額については入学手続き書類送付時にお知らせします。

注3 学生教育研究災害傷害保険は、入学時に全員加入となります。本学の教育研究活動中及び通学中に生じた急激かつ偶然な外来の事故によって身体に被る傷害に対して保険金が支払われます。

注4 学研災付帯賠償責任保険は、正課（実習等）、学校行事、課外活動及びその往復において、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊した場合等により、法律上の損害賠償責任を負担することによって被る損害について保険金が支払われます。

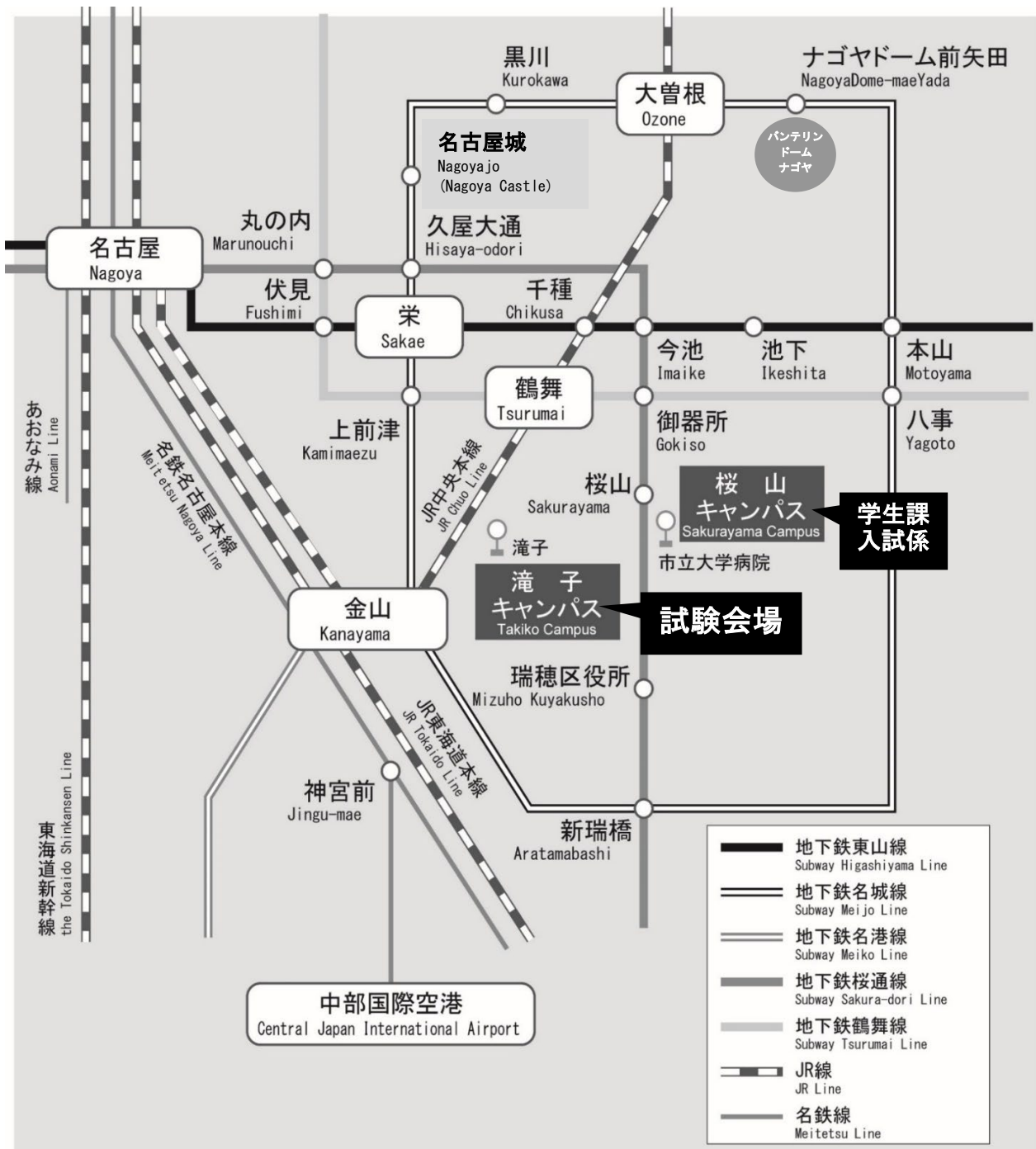
9 入学後に必要となる経費について

入学以後、学部によって以下の経費の負担が必要となります。

- ・リメディアル教育経費
- ・学外実習費等の経費

10 試験場及び学生課入試係案内

下記については参考として掲載しております。必ず直前にご自身で確認の上、ご利用ください。



敷地内全面禁煙について

本学は、敷地内禁煙を実施しており、学生の皆さんにもこの方針を遵守していただくとともに、大学周辺道路での禁煙にもご協力をいただいております。

20歳未満の喫煙は法律で禁止されていますが、喫煙が健康に及ぼす悪影響に鑑み、皆さんが本学入学後、喫煙者とならないよう強く希望します。

【付近図】



地下鉄

路線名	下車駅	備 考
桜通線	桜 山	滝子キャンパスへは5番出口から徒歩約10分

市バス

バス停	のりば	市バス経路			下車するバス停	備 考
		系統	起点	行先		
金山バスターミナル	7番	金山11	金 山	池 下	滝 子	・滝子通2丁目は一つ手前のバス停ですから注意してください ・バス所要時間はいずれも約15分 ・バス停「滝子」から滝子キャンパスまでは徒歩数分
		金山16		瑞穂運動場東		
		金山12		妙見町		
				桜山経由金山		
	8番	金山14		桜山経由 瑞穂運動場東		

11 個人情報の取扱い

個人情報については「名古屋市個人情報保護条例」に基づいて、次のとおり取扱います。

(1) 個人情報の利用

ア インターネット出願システムに登録又は出願書類等に記載された氏名、住所その他の個人情報については、入学者選抜業務（出願登録処理、選抜実施、合格発表、入学手続等）を行うため使用します。

イ 入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報を、今後の入学者選抜及び大学教育の改善のための調査研究や学術研究の資料として利用する場合があります。（調査研究の発表に際しては、個人が特定できない形で行います。）

ウ 入学者の個人情報については、教務関係（学籍管理、修学指導等）、学生支援関係（健康管理、授業料免除・奨学金申請、就職支援等）、授業料徴収に関する業務を行うために利用します。

(2) 業者への委託

上記(1)の各業務での利用に当たっては、個人情報の適切な取扱いに関する契約を締結した上で、一部の業務を外部の事業者へ委託することがあります。

12 教養教育・人文社会学部・芸術工学部の概要

教養教育・専門教育いずれも令和5年度の授業科目を紹介しています。

(1) 教養教育

社会の一員として自己のあり方を認識し、自らよりよき生き方を探求し、あわせて社会全体の幸福の実現に向けて貢献ができるよう、人間形成を図るとともに、専門教育への確かな土台を築くことを意図して、下記のような授業科目を開設し、体系的な教育課程を編成しています。

区 分		科 目 名
共 通 科 目	大学特色科目	NCUラーニング・コンパス ヘルシーライフ キャリアデザインA・B SDGsを考える(医療系 自然系 数理情報系 社会科学系 人文系) 名古屋市政を通してみる現代社会の諸問題 科学館・博物館・美術館から知る名古屋 近世名古屋の歴史 大学生から始めるESD まちづくり論 キャリアデザイン(実践編) 起業家になる 地域社会で活躍する女性 ワークライフバランスとダイバーシティ 多文化共生と国際貢献 持続可能な社会と私たち ESDと地域の環境 次世代エネルギーワークショップ
	現代社会の諸相	日本国憲法 なぜ憲法が必要なのか 現代社会と法 知的財産権入門 人と法と医療 国民所得はどう決まるか? ゲーム的状况を科学する 公共政策:健康と暮らしの社会科学 はじめての経営学 企業診断ABC 社会科学のデータ分析 社会学A 社会学B 社会学C 新聞報道の現場から 人間の行動・心理と建築 平和論 私たちの暮らしと政治・行政・地方自治 国際政治 比較政治史 シティズンシップ入門 地域力を高めるひとづくり
	文化と人間性の探求	日本文化の理解 人類学 日本語コミュニケーション 囲碁に学ぶ ヨーロッパの文化と歴史 文化に見る歴史 アメリカ史入門 都市と地域構造の地理学 音楽と文化 デザインと情報 人間と表現 自分とみんなで考える哲学 応用倫理学 心理学概論 心理学入門 西洋の教育と哲学 次世代育成と地域の課題 デジタル時代の人文学 世界を理解するための宗教学 日本の宗教の歴史と文化 キー・コンピテンシー
	人間と自然	科学史 環境と社会・制度・政治・経済 環境科学 植物の多様性と環境 動物とヒトの進化多様性 社会と医学 くすりと社会 都市と自然 健康と生活 行動生態学
	自然と数理の探求	教養として知っておきたい様々な病気の実態 創薬と生命 宇宙のなりたち 植物とバイオテクノロジー エネルギーのサイエンス バイオサイエンス入門 情報と数理の世界 データサイエンスへの誘い 地球史入門 地域生態学
	英語	IS: Community IS: Social Justice IS: Life & Work IS: Health & Well-being IS: The Arts AE: Make a Difference in Your Community AE: Interact Internationally AE: Improve Life Skills AE: Raise Health/Environmental Awareness AE: Produce a Movie CS: Presentation CS: Grammar and Usage CS: TOEIC Preparation CS: Writing EM: World News EM: Popular Culture EM: Reading for Inspiration EM: Online Articles and Videos
	その他の言語	ドイツ語初級・初級会話 フランス語初級・初級会話 中国語初級・初級会話 韓国語初級 スペイン語初級 日本手話初級 ポルトガル語入門 ロシア語入門 イタリア語入門 アラビア語入門 日本語上級 日本語リーディング・リスニング 日本語ライティング 日本語プレゼンテーション 日本語ディスカッション 日本語レポート作成
	情報科目	情報リテラシー データサイエンス・リテラシー デジタル表現基礎
	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学 健康・スポーツ実技
	ボランティア科目	
基 礎 科 目	数学・統計学	統計学B 数学基礎 応用数学 数学基礎演習 応用数学演習
	地域参加型学習	地域連携参加型学習

※学部によって、履修可能な科目が異なります。

※それぞれの母語科目を履修してその他の言語の必要単位とすることはできません。ただし、その他の言語の中に日本語を含むことができます。

(2) 専門教育（人文社会学部） 心理教育学科・現代社会学科・国際文化学科

人文社会学部では、学部発足以来の「豊かで人間らしい生き方well-being」という教育・研究の目標をふまえ、「持続可能な発展Sustainable Development」が模索されているなか、ESD(Education for Sustainable Development)を「自然や他者との関わりを通して地球社会および人間存在を問うとともに、私たち一人ひとりの『持続可能な生き方/あり方』を捉え直す教育」として実現することをめざし、学部共通科目としての基礎科目を設定し、それを土台として、3つの学科のカリキュラムを編成しています。

〔学部共通科目〕

基 礎 科 目	
ESD入門 (地球規模の課題) グローバル化と経済開発 多文化共生 人の移動とグローバル・シティズンシップ (地域の課題) 都市開発と自然との共生 自文化理解 マイノリティと共生	

〔心理教育学科〕

区 分	科 目 名
基 幹 科 目	ESD概論 多文化共生の心理学 児童・家庭福祉論1 子ども青少年支援論 社会学概論 政治学 法学 現代社会と福祉1 日本文化論1 国際関係論 多文化社会論 観光論 入門経済学I 文系のための環境理学入門 心理学概論 教育学概論2 教職概論1 発達心理学1 現代教育社会学 心理学統計法1 教育学概論1 臨床心理学概論 言語習得論
展 開 科 目	人 の 理 解 知覚・認知心理学B(認知心理学) 発達心理学2 学習・言語心理学 感情・人格心理学 神経・生理心理学 知覚・認知心理学A(知覚心理学) 動作学 現代日本語論 憲法2 人間関係論
	人 を 育 む 教育史 教育制度論 保育・教育課程総論 教育課程論 教育内容論 保育内容総論 教育方法論1・2 特別支援教育1 保育原理 教職概論2 心理学的支援法 障害者・障害児心理学 教育・学校心理学A(教育心理学) 教育・学校心理学B(教育相談) 福祉心理学
	生 涯 発 達 と 環 境 社会・集団・家族心理学A(社会・集団心理学) 社会・集団・家族心理学B(家族心理学) 健康・医療心理学 産業・組織心理学 司法・犯罪心理学 教育社会学 比較教育学 多文化保育・教育論 家族社会学(家庭支援論) 児童・家庭福祉論2 環境教育論 現代都市問題 NGO論 社会的ネットワーク論 地域社会学
	心 理 ・ 教 育 の 技 法 心理学統計法2 心理学実験1・2 心理学研究法 心理的アセスメント ESD演習(スタディツアー) 子ども青少年支援演習 保育内容演習(健康・人間関係・環境・言葉・音楽的表現・造形的表現) 子どもの理解と援助 子ども家庭支援の心理学 保育・教職実践演習(幼稚園) 社会調査法
関 連 科 目	社会的養護 社会的養護内容 子どもの保健 子どもの健康と安全 医療と保育1・2・3 子どもの食と栄養 保育相談支援 乳児保育1・2 保育内容演習2(健康・表現) 音楽表現1・2 造形表現1・2 身体表現1・2 言語表現1 保育実習1(保育所・施設) 保育実習指導1(保育所・施設) 保育実習2 保育実習指導2 保育実習3 保育実習指導3 学校体験活動 幼稚園教育実習(含事前事後指導) 医療保育実習 公認心理師の職責 人体の構造と機能及び疾病 関係行政論 精神疾患とその治療 心理演習 心理実習1・2 行政法1・2 民法1・2
演 習	基礎演習 発展演習 専門演習1・2・3・4
卒 論	卒業論文

[現代社会学科]

区 分		科 目 名
基 幹 科 目		ESD概論 多文化共生の心理学 児童・家庭福祉論1 子ども青少年支援論 社会学概論 政治学 現代社会と福祉1 日本文化論1 国際関係論 多文化社会論 観光論 入門経済学I 文系のための環境理学入門 社会情報統計論1 社会調査法 社会調査論 社会経済史 現代社会と福祉2 医療福祉論
展 開 科 目	都 市 と 政 策	現代都市問題 名古屋学2 (名古屋と観光) 国内フィールドワーク NGO論 地域社会学 地方自治論 憲法1・2 民法1・2 行政法1・2 労働法 経済法 会社法 租税法 知的財産法 現代思想 地理学 都市政策論 社会情報統計論2 環境政策論 データ解析法 名古屋と行政 公共政策論 行政学 ESDインターンシップ実習 環境経済学I・II
	社 会 と 理 論	社会学史 社会思想史 労働社会学 社会的ネットワーク論 政治社会学 メディア社会学 マスコミュニケーション論 ジェンダー社会学 家族社会学(家庭支援論) ジェンダーと歴史社会 環境社会学 質的調査法 意思決定論 国際法 国際政治史 共生論 経済学原論 日本の歴史(日本近代史1・2) 外国史概論 アジア史 グローバリゼーション研究 哲学 宗教学 社会・集団・家族心理学B(家族心理学)
	福 祉 と 地 域	社会福祉援助技術方法1・2 社会保障論 地域福祉論 公的扶助論障害者福祉論 社会福祉援助技術総論 児童・家庭福祉論2 老人福祉論 更生保護論 コミュニティワーク論 社会福祉管理運営 精神保健の課題と支援 人体の構造と機能及び疾病 権利擁護を支える法制度スクール(学校) ソーシャルワーク論 スクール(学校)ソーシャルワーク演習 スクール(学校)ソーシャルワーク実習指導 スクール(学校)ソーシャルワーク実習相談援助演習1・2・3・4・5 相談援助実習指導1・2 相談援助実習1・2
関 連 科 目		文化人類学 国際日本学概論 日本文化史2 文化資源論 日本文化論2 国際協力論 アジア文化論 アジア社会論 現代教育社会学 教育史 教育社会学 東南アジア地域研究比較教育学
演 習		基礎演習 社会調査実習1・2 社会理論演習 発展演習 専門演習1・2・3・4
卒 論		卒業論文

〔国際文化学科〕

区 分		科 目 名
基 幹 科 目		ESD概論 多文化共生の心理学 児童・家庭福祉論1 子ども青少年支援論 社会学概論 政治学 法学 現代社会と福祉1 日本文化論1 国際関係論 多文化社会論 観光論 入門経済学I 文系のための環境理学入門 国際文化学 国際日本学概論 国際文化特講1・2 名古屋学1(名古屋学入門) 名古屋学2(名古屋と観光)
展 開 科 目	日 本 文 化	文化資源論 人文情報学 日本文化論2 日本とグローバル社会 日本の歴史(日本社会史・日本近代史1・2) 日本文化史1・2 日本の文学1・2 Intercultural Studies 日本経済史 日本語・文化セミナー1・2 現代日本語論
	グ ロー バ ル 文 化	文化人類学 宗教学 哲学 共生論 国際協力論 NGO論 外国史概論 イギリス事情 国際政治史 地理学 国際法 社会思想史 憲法2 ジェンダーと歴史社会 アジア史 アジア社会論 アジア文化論 東南アジア地域研究 アメリカ政治史 アメリカ社会論 グローバリゼーション研究 Area Studies 経済学原論 国際経済学I・II 外国経済史
	言語・異文化コミュニケーション	英語文学概論 英語圏文化論 英語文学講読 英語学概論 英語学各論 英文法概論 英文法各論 英語音声学概論 英語音声学各論 Academic Presentation Academic Writing Research and Presentation Research and Discussion ドイツ語中級 フランス語中級 中国語中級 韓国語中級
	実践知プロジェクト	英語短期研修A・B・C・D ヨーロッパ短期研修A・B・C アジア短期研修A・B・C デイズニーインターンシップ 海外フィールドワークA・B・C・D 国内フィールドワークA・B・C・D・E・F・G 国際センターインターンシップ短期・長期 国内ボランティア・インターンシップ1・2・3・4・5・6・7・8・9 ICTプロジェクトA・B・C・D 留学A・B・C・D・E・F・G・H・I・J・K・L・M・N・O・P
関 連 科 目		教職概論2 教育学概論2 特別支援教育2 教育制度論 教育課程論 教育方法論2
演 習		基礎演習 発展演習 専門演習1・2・3・4
卒 論		卒業論文

(3) 専門教育(芸術工学部) 情報環境デザイン学科・産業イノベーションデザイン学科・建築都市デザイン学科

〔情報環境デザイン学科〕

区 分	科 目 名
学部共通科目	芸術工学概論A 芸術工学概論B 情報処理基礎 色彩論 デザイン材料論 人間工学 UXデザイン1 情報工学基礎 実験計画法・統計処理法 美術・デザイン史 美術・デザイン論 構成(D) 構成発想法 表現技法 デジタル表現技法 心理学 力学基礎 知的財産関連法規 都市論 ランドスケープ論 芸術工学英語A 芸術工学英語B
学部共通実習	建築デジタルデザイン実習 地域連携デザインワークショップ デザインワークショップ 社会貢献プロジェクト 芸術工学インターンシップ
基礎科目	情報処理 インタクションデザイン論 サウンドデザイン論 映像論 映像表現論 映像表現演習 メディア工学 メディア工学演習 情報通信工学 情報通信工学演習 データサイエンス データサイエンス演習
展開科目	情報処理応用 感性工学 ユーザビリティ工学 ユーザビリティ工学演習 UXデザイン2 音楽情報論 プロダクトデザイン論 デザイン人類学 広告論 デザイン表象論 視覚環境デザイン論 ロボット工学 ロボット工学演習 生体情報工学 生体情報工学演習 コンピュータグラフィックス論 コンピュータグラフィックス演習 色彩工学基礎
実 習	芸術工学実習(D) 1～6
卒 論 等	卒業制作及び卒業研究

〔産業イノベーションデザイン学科〕

区 分	科 目 名
学部共通科目	芸術工学概論A 芸術工学概論B 情報処理基礎 色彩論 デザイン材料論 人間工学 UXデザイン1 情報工学基礎 実験計画法・統計処理法 美術・デザイン史 美術・デザイン論 構成(D) 構成発想法 表現技法 デジタル表現技法 心理学 力学基礎 知的財産関連法規 都市論 ランドスケープ論 芸術工学英語A 芸術工学英語B
学部共通実習	建築デジタルデザイン実習 地域連携デザインワークショップ デザインワークショップ 社会貢献プロジェクト 芸術工学インターンシップ
基礎科目	ビジュアルデザイン論 コンピュータグラフィックス論 コンピュータグラフィックス演習 プロダクトデザイン論 視覚環境デザイン論 光電子工学 光電子工学演習 ロボット工学 ロボット工学演習 生体情報工学 生体情報工学演習
展開科目	広告論 視覚情報記号論 デザイン人類学 プロトタイピング工学 プロトタイピング工学演習 音楽情報論 インタラクションデザイン論 感性工学 流体工学 情報通信工学 情報通信工学演習 ユーザビリティ工学 ユーザビリティ工学演習 UXデザイン2 色彩工学基礎
実 習	芸術工学実習(D) 1～6
卒 論 等	卒業制作及び卒業研究

〔建築都市デザイン学科〕

区 分	科 目 名
学部共通科目	芸術工学概論A 芸術工学概論B 情報処理基礎 色彩論 デザイン材料論 人間工学 UXデザイン1 情報工学基礎 実験計画法・統計処理法 美術・デザイン史 美術・デザイン論 構成(A) 構成発想法 表現技法 デジタル表現技法 心理学 力学基礎 知的財産関連法規 都市論 ランドスケープ論 芸術工学英語A 芸術工学英語B
学部共通実習	建築デジタルデザイン実習 地域連携デザインワークショップ デザインワークショップ 社会貢献プロジェクト 芸術工学インターンシップ
基礎科目	建築史 都市計画 建築環境工学 建築環境工学演習 建築構造学 建築計画 建築計画2 近現代建築史 構造力学 構造力学演習 建築環境心理論
展開科目	都市建築関連法規 建築材料 建築材料実験 建築環境計画 建築環境設備計画演習 建築設備論 建築設備設計学 スペースデザイン 建築構造計画法 構造設計法 建築生産 都市住環境論 地域空間構成論 都市景観デザイン論 ファシリティマネジメント論 建築家の仕事 ランドスケープ設計法
実 習	芸術工学実習(A) 1～6 建築表現実習1 建築表現実習2 建築都市フィールドワーク
卒 論 等	卒業制作及び卒業研究

<注意>

学生募集要項および出願書類所定用紙は、名古屋市立大学ウェブサイトのみで公表し、紙媒体での配布は行っていません。

■連絡先：名古屋市立大学 学生課入試係 〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
TEL (052) 853-8020 FAX (052) 841-7428 E-mail : shingaku@adm.nagoya-cu.ac.jp

●令和5年7月公表